



令和8年 8 月 20 日

午前・後 8 時 50 分受領

令和8年 8月 20日

南山城村議会議長 梅 本 章 一 様

南山城村議会議員 北久保 浩司

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質問事項	質 問 の 要 旨	質問の相手
①道路インフラのこれからについて	近年、全国で大雨や台風による甚大な自然災害が多発しており、南山城村においてもいつ大規模な土砂災害や道路の寸断が発生してもおかしくない状況にあります。特に本村は山間部に多くの集落が点在しており、主要な村道が1カ所でも寸断されれば、集落そのものが孤立してしまう危険性を常にはらんでいます。 また、子どもたちの安心・安全を守る「通学路」についても、大雨時ののり面の安全確保や、歩道が未整備な箇所の安全対策は急務です。 1) 災害時の避難路・緊急輸送道路となる主要村道の総点検状況と、土砂災害リスクが高い箇所への事前対策（方面保護など）の現状について。 2) 万が一道路が寸断され集落が孤立した場合を想定した、代替路（う回路）の確保や、関係機関との連携体制はどうなっているのか。 3) 子供たちの通学路における危険箇所の把握状況とガードレールや歩道整備など、具体的な安全対策の今後のスケジュールについて。 4) 村内に有る府道の管理について、京都府との連携は図れているのか。	村長
②碾茶需要の今後の見通しと対策	現在、国内外での抹茶ブームを背景に、抹茶の原料となる「碾茶」の需要が非常に高まっております。 本村の茶農家においても、高値で取引される碾茶への転換や設備投資が進み、いわゆる「碾茶バブル」とも言える活況を呈してきました。これにより農家の所得が向上したことは大変喜ばしいことです。	村長

しかし、市場が過熱する一方で、他産業でも碾茶への増産・新規参入が急ピッチで進んでいます。将来的に「供給過剰による価格の暴落」が起きるのではないかと懸念の声が、現場の農家からも上がっています。さらに、昨今の燃料費や肥料代の高騰は、製茶工場を維持する農家にとって大きな負担となっています。この「碾茶バブル」ともいえるブームがいずれ落ち着きを見せることを見据え、村として今後どのような手を打っていくのか。

1) 市場の先行きへの危機管理

他産業との差別化を図り、南山城村産宇治茶の優位性を保ち続けるためのブランド戦略。

2) コスト削減への支援

エネルギー価格高騰に対し、製茶工場の省エネ化やスマート化への補助。

3) リスク分散

煎茶や玉露、また有機栽培（オーガニック）など、市場の変化に柔軟に対応できる生産体制への支援。